

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0390300051		
法人名	社会福祉法人 成仁会		
事業所名	グループホーム まちぐるみ		
所在地	岩手県大船渡市盛町字町3番地1		
自己評価作成日	平成25年9月30日	評価結果市町村受理日	平成26年2月18日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kai.gokensaku.jp/03/index.php?act=on_kouhyou_detail_2013_022_ki_hon=true&Ji_gyosyoCd=0390300051-00&Pr_efCd=03&Ver_si_onCd=022
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	公益財団法人いきいき岩手支援財団
所在地	岩手県盛岡市本町通3丁目19-1 岩手県福祉総合相談センター内
訪問調査日	平成25年10月18日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

コンピュータシステム「ちょうじゅ」を導入しており、科学的ケアの実践に努め、また入居者の幼少期から入所直前までの生活歴等を勘案した個別介護計画を作成し、全人的なケアの提供に努めている。当事業所が所在する地は、盛町商店街の中心地に立地しており、入居者の食材料等の調達等は出来るだけ商店街で買い物をして、地域交流の一環として捉え、加えて商店街の活性化の一助にもなっていると認識している。また、事業所名のとおり認知症の利用者を「まちぐるみ」で支えていこうという観点から、パブリックスペース等を活用した地域交流の機会を数多く設けている。震災後は地域の方へ避難場所にと呼びかけている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

法人の基本方針である「愛をモットーに、和をもって、仁につとめる」を踏まえつつ、グループホームとして目指す目標を掲げ利用者の心に寄り添うケアに日々取り組んでいる。同一建物内には、1階がグループホーム、2階・3階が老人福祉施設の「蔵ハウス」がある。行事、災害対策、研修、運営推進会議等、合同で実施するなど多岐に渡り、連携・支援が得られる恵まれたホームである。当事業所は、盛町の街中に立地しており、地域住民、商店街の方々とのかかわりもより一層深まり、利用者、家族の安堵感にも繋がっている。職員の接遇の強化に力を注ぎ、開設時の5年前の原点に戻るべきとの認識を新たに、自己研鑽に努めている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価票

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	法人の基本理念「すべては愛から始まる」を念頭に、当事業所は「まちぐるみ福祉の拠点として」「寄り添うケア」を方針と目標に掲げ実践している。	法人の理念である「すべては愛から始まる」をモットーに事業所職員みんなで8項目の目標を掲げ、利用者の心に寄り添うよう、笑顔で優しく共感的理解を深めながらということを中心に、日々のケアの実践に繋げている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	災害時の避難場所にと声をかけている。また、地域の行事(夏祭り・七夕・お天王様子供相撲大会)には駐車場を提供している。日常の買い物や散歩は近所のスーパー、個人商店を普段から利用している。施設のイベントには地域の方を招待し、参加していただいている。	地域の各種行事には参加をし、またホーム内の地域交流スペースの開放や、駐車場を提供している。利用者が外に出向くことを大切に、毎月、市日(いちび)に開かれる市に買い物に出かけたり、近所の方が面会に来たり地域と繋がりがりながら暮らししていく支援に積極的に取り組んでいる。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	2ヶ月に1回発行している「まちぐるみ通信」にて、認知症についての紙面を作成し、認知症の理解や支援の方法を促している。また、運営推進委員会で地域からの要望を聴取している。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	入居者の状況(行事、入退所の状況)を報告し、通信や日常生活の様子を写真などで回覧している。委員よりその時期の社会情勢に合った話題を提供していただく。地域からの要望とともに、こちらからの依頼なども検討している。	運営推進会議は、蔵ハウスと合同で実施している。構成員に11月から利用者も参加予定である。会議の中では、季節ごとの話題(インフルエンザ、食中毒、火災等)が出たり、事業所でイベントがあるたびに、案内状を配布していたが、事業所の入り口に掲示板の要望があり、現在発注中である。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	運営推進会議の開催や、大船渡市内の事業所及び市町村担当者が集まる事業所連絡会への参加をし、当事業所の状況等を報告している。	市の担当者や、事業所連絡会議の月1回の研修会に参加し、情報を得ている。後見人制度を利用している方(2名)もいることから、毎月来て頂いている。災害時の避難場所として、市の指定は受けていないが、ホームを避難場所として声かけして、協力関係を築いている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束はしないことが基本であり、玄関、リビングからの出入りは自由に出来る。研修会では身体拘束実態調査結果や、当法人のマニュアルを確認・検討をしている。	年2回身体拘束をしないケアのマニュアルを読み返しながら、内部研修を実施している。言葉による拘束も職員同士その都度注意し合ったり、申し送り時や、ヒヤリハット等に記録している。センサーは一切設置しておらず、見守り、目配り等の方法を徹底している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	入浴時や介助時は身体状態の観察をし、何かあれば(発赤や掻き傷なども)記録している。内部研修を実施している。		

岩手県 認知症対応型共同生活介護 グループホームまちぐるみ

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	権利擁護及び日常生活自立支援事業等の内部研修を実施している。また、ご利用者様やご家族の方々にも周知して頂くよう、玄関前に資料を設置している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入所時の契約に加え、介護報酬改定等の際にも十分な説明を行い理解・納得を得ている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進委員にて意見を聴取している。また、家族等が気軽に意見等を述べる施設長への直送便を設置している。利用者からは毎月懇談会を実施し、意見等を聴取している。	家族等が意見などを述べられるように意見箱を設置しているが、現在のところは提出されていない。利用者からの要望として、外食・外出希望などがあり、希望に添えるよう支援に努めている。また、個浴の際や、七夕の短冊で願い事を把握して共有に努めている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月1回、蔵ハウス大船渡と合同職員会議を開催しその際に意見を聴取している。	年度始めに、蔵ハウスと合同で法人全体の運営方針や協力体制の構築に努め、行事、研修、勉強会の実施とホーム独自でも毎月意見など聞き、ヤクルト販売(週2回)や移動図書館(月1回)来訪して頂き、利用者にも大変喜んで頂いている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	努めている。具体的には、業務の見直し等を随時行い、勤務時間内での労働に取り組んでいる。また、職員会議等では、職員が意見を積極的に発言できる雰囲気作りにも努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人内外の研修会には積極的に参加をしている。また、個々の質の向上には、毎日のミーティング時に簡潔なカンファレンス等を行い、トレーニングに努めている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	同業者との交流は、主に外部の研修会等に参加した際に、交流や活動の情報交換をしている。岩手県GH協議会に出席し、その際にも情報交換等に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	実態調査の段階で本人及び家族等から詳細に聞き取りを行い、また、担当ケアマネと連携し本人の安心確保に努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族とも上記に同じ。入所後は状況により面会時や電話等で知らせ、家族と相談しながら対応策を検討することもある。(受診対応や、介護用品の購入など)		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入所後概ね2週間は細かな状態観察を行い対応策を検討し、利用者に「その時」に一番必要な支援をしている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	職員は利用者の生活をお手伝い・支援するという立場で接している。具体的には、共に調理をしたり、献立の相談をしたり、買い物に行った場合は一緒に旬のものを選んだりしている。入居者懇談会において希望を聞き取りしている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	当事業者は5名の身元が遠方なので、2ヶ月に1度の広報誌の送付や日常の生活を電話連絡等で行い、利用者の生活が理解できるように努力をしている。また、同室にて宿泊も可能で利用されている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	近所の同級生、知人が訪ねてきたり、馴染みの店に出向いたりの交流を積極的に努めている。また、在宅での生活をそのまま継続できるように馴染みの家具等の持ち込みを促している。	利用者(の家)の近所の方や、親戚の方がよく来訪される。また同級生の方が来てくださり、一緒に出かけたりしている。床屋さんも月1回訪問しているが、いつものお店を利用してる方もいるので、その支援にも努めている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	事業所全体を一家族と捉え、毎日の食事や活動等に一同が会える事ができるよう雰囲気作りに努めている。その結果が現在居室にて孤立している方はいない。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退所時移動先の事業所に本人のこれまでの様子を情報提供し、移動先での環境への不応がないように心掛け、連携を密に図っている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入所時に利用者から直接、事業所での生活に対する希望等を伺っている。また、入居者懇談会にて個別に聞き取り等を行い、意向の把握に努めている。	利用者の希望の把握については、入居時の面接等により、その方の今までの人生を家族からの情報で把握している。普段の生活の中でも、個室や入浴時にも聞くようにし、気付くことがあれば、共有に努めている。職員は、アルバム作り担当、ケース記録担当と決めてはいるが、全ての職員が関わっている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	前述した入所時の実態把握調査や面会時の会話などから、把握に努めている。また、普段の会話で本人より話を聞いたりしている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	前述した入所時の実態把握調査等にて把握に努めている。また、24時間シートを作成し個々の1日の過ごし方を職員が共有できるようにしている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	介護計画を作成する際に、担当者会議を開催し介護計画及びモニタリングを行っている。その担当者会議の際には、家族等にも参加を促している。または面会時などに意見等を聴取している。	ケアプラン作成会議には、家族が参加できない状態ではあるが、家族が来訪した際には意向の聞き取りや、電話等で頻りに情報を得て、介護計画を作成し、3ヶ月ごとに見直しをしている。ケアチェック表は全て電子手帳で入力するので、効率よく全職員が共有出来るシステムとなっている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日常の様子やケース記録等を共有し、介護計画を再立案する際に見直しを行っている。特に計画の課題の他に出現した様子等は随時情報共有を行い、即時に対応をしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	当事業所の利用者は他事業所の利用はないが、事業所内で生まれたニーズには柔軟に対応している。併設施設と連携し施設機能を活用し、対応している。		

岩手県 認知症対応型共同生活介護 グループホームまちぐるみ

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	随時地域の方々が参加できる行事等を立案し、地域と共に暮らしを楽しむことができるよう支援している。色々な展示会や催し物の見学、図書館、外食などに出向いている。月1回の移動図書館も活用している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	併設事業所には嘱託医がおり、特に希望がなければ主治医として診てもらっている。入居前からの通院先にも必要時には受診している。また、専門医の受診は適宜判断し、適切な医療を受けられるように支援している。	入居者全員が、グループホームの協力医(蔵ハウスの嘱託医)にかかっている。特別な専門医以外は、職員が同行し、病院に行く前と、受診後の報告は家族に伝えている。歯科医師会からボランティアで年1回来訪して頂いている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	当事業所では看護師は配置していないが、併設している事業所の看護師に随時相談等を行い、適切な受診ができるよう支援をしている。また、前述した嘱託医との連携にも努めている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院した際には、退院後の行先を家族と相談し合ったり、安心して治療に専念していただく。病院へは何度も足を運び、担当看護師に病状の説明を受けている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	終末期の在り方については、入所時に確認をしている。また、事業所内ではターミナルケアのマニュアルを作成しており、職員間で方針を共有している。	重度化の際のことについて、入居時に本人・家族に説明し、確認している。今年度、重度化された利用者の終末期のケアをし、主治医の指示で入院ののち、一週間後に病院で亡くられたという経験をしている。全職員内部研修をし、マニュアルも用意し、体験したことを共有している。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変時の対応についても、マニュアルを作成している。また、施設内研修では心肺蘇生等を行い、実践力の向上に努めている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	併設事業所と合同で消防訓練を毎月実施し、職員非常連絡網も作成している。また、地域との協力体制は現在構築に努めている。	防災扉を含めての消防設備点検は実施済みである。実際にスモークマシンを使用して訓練をしている。1階のホームの利用者を2階まで移動して頂くことの訓練をしたり、職員は救助袋を使用しての体験実習を習得した。外が薄暗くなった時間帯に夜間訓練を緊張感を持って実施した。	地域での協力支援は、避難誘導や見守りなど具体的で身近な支援協力があると、より安心につながると一考する。地域防災組織の立ち上げに向けて、消防団長に依頼したり、運営推進会議で体験して頂くよう検討中であり、今後の展開に期待したい。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	当事業では常に職員にすべてのケアの場面で「利用者の尊厳を損ねないように」との意識付けに努めている。接遇についての研修も実施している	それぞれに、これまでの人生の暮らし方があるので、それを尊重し、寄り添うケアに心がけている。一緒に共感出来るようにしている。接遇についての内部研修を実施している。利用者のマイナス部分を全職員把握し、フォローし傷つけないよう対応している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日常の言葉かけの中で実践している。すべての場面で常に利用者自身が選択できるような働きかけをしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	入居者懇談会にて希望を伺い、それに沿った支援をしている。本人の希望を可能な限り受け入れ、外出や買い物等の対応をしている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	随時、美容院や床屋、化粧品等の買い物ができる体制作りにも努めている。近所にある衣料店にも希望時は一緒に出かけている。施設に月1回、美容師さんが来所し散髪を実施している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	年度ごとに嗜好品の調査を行っている。また、準備や食事等は入居者と共に実践し、職員も食事時間には介助を要する方の席になるが一緒に摂るよう努めている。	利用者は、身体機能の低下等により下膳も困難となり、テーブルの上で片づけをしたり、ワゴンを押したり、調理は炒めものをしたりなど出来ることを手伝っている。毎年嗜好調査をしているが、嫌いなものが、食べられるようになった方もいる。利用者の方に翌日の食事メニューを書いて頂き、リビング前のテレビの脇に掲示して頂いている。食事介助の方が2名おり、職員は交替で食事をしている。楽しそうにお話をされていた。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	例えば食事に関しては1日30品目以上の食材を摂取できるように心がけている。また、水分量等については、当事業所で取り入れているコンピュータシステムで管理をしている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、口腔ケアを実践している。また、随時歯科受診等を行い、その際には利用者個人毎の口腔ケアの指導も頂いている。		

岩手県 認知症対応型共同生活介護 グループホームまちぐるみ

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	開設当初から利用者の排泄パターンを把握した排泄ケアを実践しており、トイレ誘導は随時対応をしている。	自立でトイレに行ける方が2名おり、見守りで対応できる利用者が多い。居室には、トイレが完備されておりコールで教えてくれる方もいる。毎朝、温かいタオルで排泄後の清拭を実施している。介護用品は軽度品の利用となっている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	食材には毎食野菜を取り入れ、水分量・運動・習慣等を考慮しながら便秘予防に努めている。また、主治医と連携をし、時には下剤等の処方もしている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	最低週2回の入浴は決めているが、他に希望があれば対応している。	入浴は週2回としているが、4回入浴される方も2名いる。希望を聞きながら、足浴をしたり、シャンプーも自立の方、支援の必要の方など、個々に合わせた取り組みをしている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	地域がらか入眠時間が早い方もおり、夕食時間を早目に対応している利用者もいる。また、日中行事等があった際には、疲労等も考慮し気持ち良く眠れるよう支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	利用者1人ひとりの内服表を作成し、薬剤師より提出された副作用及び用法や用量を理解と確認に努めている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	前述した入所時の実態把握調査等にて把握に努め、趣味活動の援助、飲酒の対応、外出などの支援をしている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	外出に関しては、本人の希望等を考慮し、バスハイク、外食、買い物などに出掛けている。家族との外出も連携をとりながら実施出来るように努めている。	家族と外食を楽しむ方(1~2名)や、買い物(衣類等)が好きな方、外出してソフトクリームを食べることが好きな方は、介護計画に盛り込んでいる。衣類の入れ替えは職員が支援に努めている。バスハイクで自分の住んでいたところや、住田町の菜の花を見学に行ったり、紅葉狩りはこれから実施の予定であり、楽しみにしている。	

岩手県 認知症対応型共同生活介護 グループホームまちぐるみ

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お金を所持している方は5名おり、買い物や孫への小遣いなどに使っている。本人の満足感や自立に大切な役割をしている事を職員は理解している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	本人が希望した場合は直接電話を掛けているし、手紙は本人に手渡し、その返事は本人に電話をかけていただいている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共同の空間は、常に季節感をかもし出すような装飾をしている。また、家庭的な雰囲気作りに努めている。	職員は居場所づくりの工夫として、玄関から入った時の家庭的な雰囲気を出すために、下駄箱の配置にも心がけている。また、各居室がすぐ見えないよう、暖簾をするなど工夫・配慮している。「ユニットケアとは」の研修の受講をしたり、利用者と一緒に(共用空間を)考え、自分の家だという意識を高めてもらうようにしており、利用者の各作品、自由にくつろげるソファもあり、温かさが感じられた。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	和室コーナーやリビング以外にも気の合った利用者同士で過ごせる居場所を確保している。また、併設事業所の地域交流スペースの活用もしている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	在宅での生活をそのまま継続できるように馴染みの家具等の持ち込みを本人及び家族等にも促している。位牌を持参された方も3名いる。	利用者それぞれに仏壇、衣装ケース、整理タンス、洋服筆筒、お茶セット等個性豊かに持ち込まれている。転倒しやすい人は、ソファを手すり代わりにするよう設置されたり、ベッドの位置も、一人ひとりの生活に合うよう工夫されている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	環境については、建設時よりバリアフリーや尊厳の保持を念頭に各居室にトイレを設置している。また、ユニット内だけではなく、地域交流が出来るスペースも確保している。		